国交省CIM

詳細設計で試行

特記仕様書 3Dソフト適用明示

国土交通省は、2014年度でのCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）の試行方針をまとめた。工事では詳細設計付き工事での試行を検討。3次元ソフトによる数量算出の適用を拡大できるよう、特記仕様書での明示や数量算出要領の見直し、新たな積算方法の研究などを実施していく。また3次元モデルの作成基準を策定し、モデルで実施する業務内容などを明確化する方針も打ち出している。さらに、CIMを導入した際の優位性がより明確にわかるよう、効果の「見える化」も検討する。

工事や業務での試行は、13年度で実施した調査・設計業務の施工段階での効果検証に注力する。その中で、新たに詳細設計付き工事での試行を検討。13年度には予備設計や概略設計でもCIMを導入しているが、詳細設計の段階ではより詳細なモデルを作成する必要性を指摘する意見も挙がっており、新たな試行で設計と施工の段階での連携策を模索する。今後、各地方整備局と意見交換して適用案件の選定作業を進める考えだ。対象案件は、指定型としての発注を見込む。

また、13年度までに実施した業務や工事の案件での検証作業を継続する。13年度に試行した業務は19件あるほか、12年度に試行した業務で工事に移行していない案件も5件あり、こうした業務などを対象に工事段階で検証する。

数量算出では、特記仕様書で土工やコンクリート工事などの体積の計算方法で3次元ソフトの数量算出機能を適用できることを明示する方針。年度明けにも各整備局に周知し、活用に入りたい考えだ。また、CIMの実施にあわせて数量算出要領を見直していく。3次元モデルからの数量算出手法が従来設計の算出基準を踏襲していることを明記し、算出過程で精度としての違いがない点を打ち出すことで、CIMの利活用拡大につなげる。

さらに積算での数量算出に3次元CADの数量算出機能を利用することが、業務の効率化やソフトの普及などからも有効であるとして、14年度から新たな積算方法の検討も始める。実施の可能性や方法などをゼロベースで検討する見込みだ。

このほか、測量調査や設計レベルで求める3次元モデルの標準的な制度を定めた「3次元モデルの作成基準」をまとめ、14年度から運用に入る考えも示した。試行業務の成果を踏まえて運用する予定だ。

CIM導入による作業の効率化やコストの削減といった効果を数値化できるようにする「見える化」の取り組みも検討する。どういった業務や工事、事業でCIMの優位性があるか示すことを目標にし、より適切な表現形式についても模索していく。

建設通信新聞

【建設ICT】

1. 日経	2. 朝日	3. 毎日
4. 読売	5. 岐阜	6. 中日
7. 産経	8. 静岡	9. 伊勢
10. 中部経済	11. 建通	12. 日刊工業
⑬. 建設通信	14. 信濃毎日	15. 日本海事
16. 建設工業		

平成26年4月1日（朝・夕）P1